

先 德 餘 香

後學南條文雄集記

大正十二年九月二日夜、余ハ類焼ノ難ニ遭ヒ、藏書ハ皆烏有ニ歸セリ。然ルニ僅カ燒ケ殘リノ隨筆二三冊アリ、其一ハ先輩詩歌逸話集ト云フ、此レハ重出ノ恐レアレドモ、無聊ノ餘リ、之ヲ錄出スレバ左ノ如シ、時ニ大正十三年一月中旬、東京市外澁谷青山ノ閑居ニ在リテ識ス。

無 題

光遠院慧空講師

舞姫のすぐるゝわざにごとたへて、ほむるあまりに名をばよびけり。

此は慧空の詠まれし歌なること、正信偈略述の終りに自筆に書き置かる。(慧琳講師自筆手扣)

至心信樂欲生我國乃至十念のこゝろを

香嚴院慧然講師

疑はぬ心にあまる聲々は、いのちにつるゝくちずさみかな。

日暮登三日觀峰一作

理綱院慧琳講師

路攀松柏上。絕頂鬱崑崙。皓月劈山出。征帆隨浪馳。天涯孤島雪。雲外流門潮。薄暮遠鐘響。此時獨蕭條。

除夕

此夕意何如。祁寒懶披書。臨爐空屈指。曆日時愁予。

予幼好詩歌文章、歲及冠具、困々義學、不遑於詩壇文場、歲月逝矣、修妬□□、博綜多識、辯才□文、頌談論過世間、上代高僧慧遠慧什甘露滅之儕、一□詩賦、予奚爲嘲棄之耶、雖欲遊藝林、而尙劣於小和尙輩、故耻學之遲暮、詩賦之作闕如焉、天明乙巳秋八月、偶搜故紙堆中、獲此二首、以貽厥子孫云。

七十一老衲書(慧琳講師印)

題竹

開轍院隨慧贈講師

可剪爲雙管。必作裂石聲。莫向江邊弄。恐有白龍驚。

無題

香光室寶月嗣講(易行院師之父)

曾把金經稍就眠。童真迎我彩雲邊。何圖功德莊嚴窟。却在扶桑筑紫天。

又

自_レ從漢帝夢_レ金顏。需釋文章季孟間。欲_下倣_二昭明_一論_中筆削_上。深探石室與_二深山_一。
(是述_レ所以撰_二釋教文選_一唱_下古文辭_上也。)

又

周妻何肉混_二風塵_一。沈醉如_レ泥豈厭_レ貧。忽見_二長安名利客_一。始知身是獨醒人。

(此師平生慨_二憎風日頽_一、以諷_二視之_一也。)

又

少歲脩_レ文遊_二文藝_一、壯年學_レ道轉_二三車_一。欲_レ知_二佛理踰_二儒理_一。方便風開智慧花。

大垣長勝寺中秋觀月

易行院法海講師

孤松蟠屈老龍鱗。掛得秋天明月輪。我立_二中庭_一吟_二此趣_一。不_レ知冷露濕_二衣巾_一。

雲

さだめなき雲なればこそ月影を、しばしかくして又もらしけれ。

又

月影をしばしかくして又もらす、恨み重なる山の端の雲。

長勝寺の萩を見て

鹿の音のきかまほしさに植置て、にはもせにさく秋萩の花。

登ニ養老山

(明治三十年九月三十日在肥後天草鎮道寺所見)

奇巖百尺掛ニ甘泉。養老佳名今古傳。何物縮來千里地。令人指ニ點八州天。林端風靜聞ニ鳴鹿。洞口雲飛憶ニ羽仙。一自ニ山靈迎ニ帝蹕。恩輝不レ減萬斯年。

己卯(文政二年)五月七日登ニ金海山、初夜聞ニ佛法僧鳥。

(明治三十年十月上旬在肥後八代光德寺所見)

火國名山萬仞巔。金仙湧出一千年。于レ今七瑞非難レ感。吾喜靈禽有宿緣。

又

清風皓月已初更、一鳥長呼三寶聲、聞罷閑林思ニ淨土。寧同高野大師情。

又

佛法僧聲人界少。飛來飛去鳴ニ雲表。寄レ言名利縛ニ身徒。須レ愧頑愚不レ如ニ鳥。

孟春題ニ勝願寺茶室

(明治三十年八月十六日在越後柏崎勝願寺所見)

遠近春山積雪殘。享ニ茶方丈不レ知レ寒。斯須全腋清風起。何讓仙家換骨丹。

賀願海老法師六十(師雲華師之肉兄)

(明治三十二年七月十八日在豊後竹田滿徳寺所見)

階庭玉樹映芝蘭。六十紅顏帶笑看。我在天涯難獻壽。夢中相揖五雲端。

秋夜小巴樓上作

(明治三十七年十一月三日在東京小石川安閑寺所見)

天晴明月掛雲端。皎若佳人倚玉瀾。誰把瑤琴彈此意。清風半夜客衣寒。

故品裝法師のうへおかれし糸櫻を見て

なき人のかたみときけば糸櫻、長き日にさへあかずこそ見れ。

送雲華尊者登富岳

我昔三過芙蓉簷。徒望天盤(與カ)地軸。無因一舉陡崔嵬。偏恨名山待宿福。雲華尊者趣行裝。聞之心神飛揚。想君仔細探靈祕。陰巖陽峰極翱翔。六月猶箭珂雪潔。半夜更吸紅暎光。聞說絕頂多神僊。躡比三十有三天。倘視君王一笑相揖。環佩珊珊步紫烟。君亦神通不相讓。挹袖拍肩共蹠躡。霓裳羽衣爲君奏。洪崖弄管姮娥絃。願我化冲天鶴。逸翮東飛舞其前。

菊生の七十の賀に花中偏有菊といふ事を

花といへばなべて櫻を見はやせど、ちらの(ぬカ)色香は菊にぞありける。

大

谷

(出「豊繪詩史」上二十四左、然無起承二句)

請看石虎墳前略。芳草春風六百年。

題

芭

蕉

(同 前)

雷公似_レ妬驚_レ人句。破_レ盡芭蕉_レ不_レ可_レ題。

題_ニ沙彌法力逆騎圖

(明治三十七年四月二十二日左越前風卷淨明寺_一所_レ見)

念佛沙彌馬首東。舉_レ鞭千里亦稱_レ雄。刹那不背西方國。驛路悠悠一向中。

無

題

(明治三十八年四月五日在美濃高桑善覺寺_一所_レ見)

海也頻年背_ニ慈親_一。今朝占親故園春。看_レ花聞_レ鳥高堂下。未_ニ是東西南北人_一。

又

取_ニ路西方_一歩々移。何時寶地踏_ニ琉璃_一。一年三百六十日。中有_ニ終焉_一不_レ可_レ知。

無

題

(「秀存語錄」二〇五頁ニ出ヅ、此ノ歌ハ尾張岩塚遍慶寺ノ所藏ナリト云フ)

あきらけき光を四方のかざりにて、月のなかなる武藏野の原。

賀順慧師七十初度

(師ハ越前丹山師ノ父ナリ、此ノ詩ハ「淨勝寺丹山」一四頁ニ出ヅ)

七十高僧住梵城。法壇猶見子孫榮。嘉辰不用南山頌。高唱無量壽佛名。

示同門子

五乘院寶景講師

(明治三十四年八月二十三日在越後新津果成寺所見)

寄語同法侶。一絲且一餐。佛賜白毫德。慎無吞鐵丸。

野草秋近

百草のつぼみも露もかす見へて、はや秋ちかく野は成にけり。

閑談

老らくはたゞ思ふごちこしかたを、かたろふ外の慰ぞなき。

夏夜待月

(尾張岩塚遍慶寺所藏)

すいみする聲も聞へてふくる夜は、よそも端居に月を待らし。

八十のよはいをへて

(明治四十二年一月二十七日在武藏品川正徳寺所見)

かしこしないつこたび老のさかこえて、みのわの道に猶のぼる身は。